

小学校第6学年 社会科

⑩古墳を調べよう

—黒塚古墳の学習を通して—

学習のねらい

- 奈良には古墳がたくさんあり、その古墳の出土品を調べることは大和朝廷（大和政権）の成り立ちを知る上で重要な手がかりになることを理解する。
- 古墳の出土品から当時の人々の生活の様子を想像することで、地域の歴史学習に興味・関心をもつ。

郷土の資源について

天理市内には古墳が点在しており、特に大和古墳群には大きな古墳がある。その中でも黒塚古墳は平成9年に発掘調査された際、三角縁神獣鏡が33面出土したことで有名である。この資源を活用することで、当時、国が統一されてできた大和朝廷（大和政権）の中心地が近くにあったことを理解する。



学習指導要領上の位置付け

第6学年 縄文のむらから古墳のくにへ

学習の流れ

1. 黒塚古墳で鏡が発見された新聞記事を読んで、学習問題をつくる。
「なぜ、黒塚古墳から鏡が発見されたことで多くの人が集まるのだろう。」

1 時間

2. 日本全国の古墳の分布や古墳からの出土品について調べる。

1 時間

3. 天理市教育委員会 文化財課の学芸員の先生に話を聞く。

1 時間

4. 古墳の出土品から当時の人々の生活の様子を考える。（本時）

1 時間

展開例（本時 4 / 4）

	学習活動	指導上の留意点 （※評価規準）	備考
導 入	○前時までの学習を振り返る。		
	古墳の出土品から当時の人々はどんな生活をしていたか考えよう		
展 開	○古墳の出土品を仲間分けする。 ・ 普段の生活に関係するもの ・ 武器に関係するもの ・ その他	・ 教科書、社会科資料集、「天理の古墳文化を学ぶ」などの学習資料を活用させる。	
	○それぞれの出土品をどのように使っていたのか、または、出土品から分かる当時の生活の様子を話し合う。	・ ウェビングマップを使って、想像したことを広げさせる。	
	○話し合った内容をクラスで交流する。		
ま と め	○当時の生活を想像して、お話を作る。	※出土品から考えられる内容でお話を作ることができている。	
	【習得すべき知識】 古墳の中にはさまざまなものが納められており、その出土品を調べることで当時の生活の様子分かる。		

発展的な学習の例

総合的な学習の時間で、さらに奈良県内の古墳と出土品を調べ、それを基に当時の生活の想像図を描いて発表するなどの探究的な学習を展開することが考えられる。

参考文献・Web ページ

- ・ 天理市教育委員会 文化財課 HP
<http://www.city.tenri.nara.jp/kakuka/kyouikuiinkai/bunkazaika/index.html>
- ・ 朝日新聞縮刷版 （平成 10 年 1 月 10 日付 1 面）
 （平成 10 年 1 月 18 日付 39 面）
- ・ 学習資料「天理の古墳文化を学ぶ」
 天理山の辺の道歴史遺産を学ぶ実行委員会 発行

